

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行「第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第1章 典礼の刷新と促進のための一般原則」の「Ⅲ 聖なる典礼の刷新」の続きを解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

## Ⅲ 聖なる典礼の刷新

### 典礼憲章 ⑨ ~第二バチカン公会議公文書より~

#### B 位階的、共同体的行為としての典礼の性格に基づく基準 (続き)

- ・ 典礼奉仕者の養成：侍者、朗読者、先唱者、聖歌隊に属する者など、全ての奉仕者は、真に【典礼】的奉仕を行いましょ。奉仕者は、自分の役割である「偉大な奉仕職」にふさわしく、神の民が当然期待している「誠実な信仰心」と「秩序」をもって自らの職務を果たさなければなりません。そのためにも、典礼奉仕者は、それぞれにふさわしい方法で【典礼】の精神が入念に教えられ、自分の役割（分担）を秩序正しく実行するよう養成される必要があります。
- ・ 信者の行動的参加：私たち信者は【典礼】への行動的な参加を推進するため、会衆の応唱、答唱、詩編唱和、公唱、聖歌、更に行為（動作と姿勢）まで配慮しなければなりません。また、しかるべきときには「聖なる沈黙」を守らなければなりません。
- ・ 信者の役割の明確化：典礼書の改訂に当たっては、典礼注記の中に「信者の役割」も記されるよう細心の注意が払わなくてははいけません。
- ・ 個人的理由の差別はない：【典礼】においては【典礼】上の役割と叙階から生じる区別、【典礼】法規の規定による礼儀のほかは、儀式そのものも、外的な荘厳さも個人的な理由や身分による区別があってはなりません。

(つづく)